『紀要愛媛』第20号　1–22頁　2024年5月
公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター(愛媛県松山市)

松山平野の大型器台と弥生時代後期遺跡

松村さを里

1　はじめに

弥生時代後期には西日本各地で器台を用いた祭祀が発展する。瀬戸内地域では弥生時代後期後半に特殊器台と特殊壺を発展させた器台祭祀の中心地域といえるのが吉備地方で、一方、瀬戸内地域の西側では大型器台をもちいたもう一つの器台文化が伊予地方を中心に展開している。

筆者はかつて伊予地方における器台の分類を行い、西部瀬戸内地域に広がる弥生時代大型器台の発展と展開について述べたことがある(松村2008a)。伊予では後期中葉以降に大型器台が独自に展開するようになり、後期後半には発展を遂げ大型器台が加飾性を高め最大の法量となり、伊予の大型器台が豊後・周防地方など西部瀬戸内地域にも広がりをみせる。伊予から西部瀬戸内地域に広がる大型器台を「西部瀬戸内系大型器台」と呼称し(谷若1996・松村2008a)、西部瀬戸内系大型器台の集成を行った(下條・松村2008)。

この西部瀬戸内系大型器台の中心的な分布を示すのが松山平野である。本稿で述べようとする松山平野での大型器台出土遺跡の分布と遺跡群についても検討したことがあり(松村2008b)、大型器台の出現について松山平野東部の来住台地上に位置する久米遺跡群に注目し、平野内の遺跡・遺跡群のなかで器台の分布に遍在傾向がある可能性を示したが、当時は各遺跡や遺跡群について十分な検討まで至らなかった。その後、北井門遺跡2次調査など弥生時代後期の集落遺跡調査が増え、大型器台の出土事例も増えていることから、あらためて時期ごとの大型器台の集計と出土遺跡の分布を整理し、松山平野の大型器台の出現と弥生時代後期遺跡の展開について考えてみることにしたい。

２　松山平野の弥生時代後期の土器編年と遺跡群

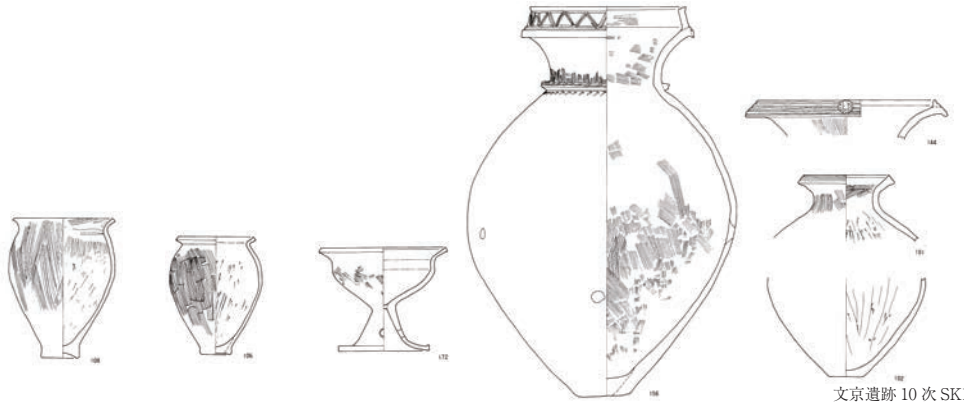
(1)　松山平野の弥生時代後期土器編年と器台の変遷

はじめに松山平野の弥生時代後期土器編年のなかで器台の分類と変遷について確認しておく。

松山平野の器台の変遷は、梅木謙一氏による弥生時代後期土器編年を基にしている。梅木編年では、弥生時代後期土器を初頭(後期Ⅰ-1〔梅木1991・1996・2001・2015〕/様式と編年V-1〔梅木2000〕(以下略す))・前葉(後期Ⅰ-2/V-1)・中葉(後期Ⅱ-1/V-2)・後葉(後期Ⅱ-2/V-3)・終末期古相(後期Ⅲ-1/V-4)・終末期新相(後期Ⅲ-2/V-4)・古墳初頭(後期Ⅲ-3/記載なし)と区分する。

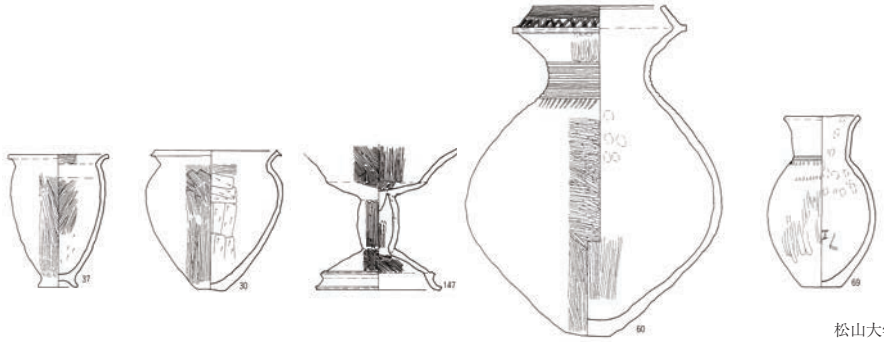
以下、梅木編年を基準にして、松山平野の器台の分類と変遷をみていこう(図1・2)。大型器台はD1型式・D2型式・E型式が該当し、大型器台の画期は、後期中葉～後期後葉の古段階が出現期、後期後葉～終末期古相が盛行期、終末期新相～古墳初頭が衰退期と捉えられる。図2は変遷図(松村2008a)に、その後調査された北井門遺跡2次調査資料を追加して再掲したものである。

前葉（Ⅰ-2）



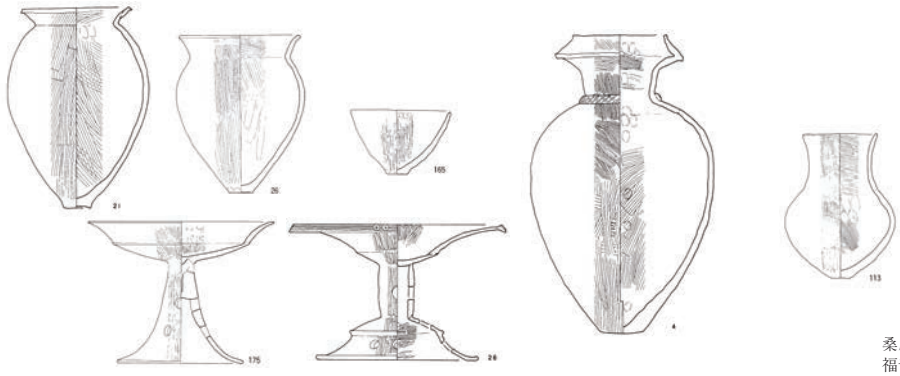
文京遺跡 10 次 SK15・SX14

中葉（Ⅱ-1）



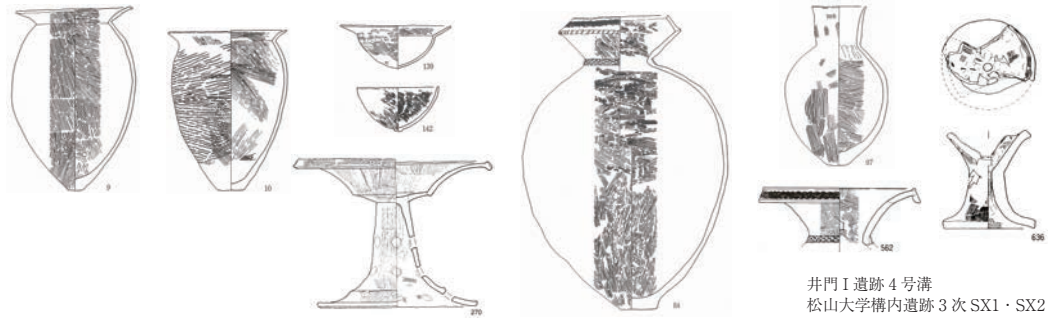
松山大学構内遺跡 2 次 SB7

後葉（Ⅱ-2）



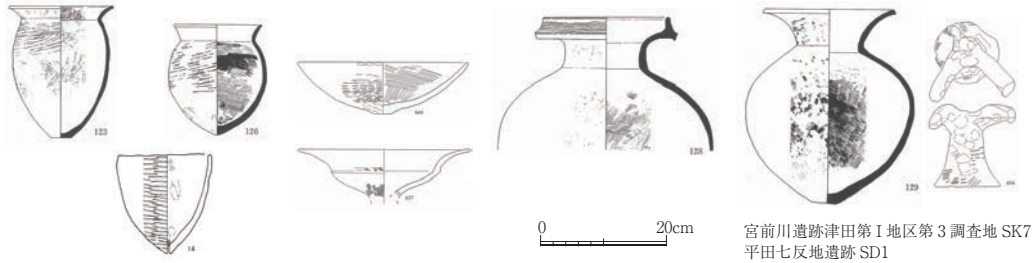
桑原田中遺跡 SK1
福音寺筋違 F 遺跡 SB5

終末期
古相（Ⅲ-1）



井門Ⅰ遺跡 4 号溝
松山大学構内遺跡 3 次 SX1・SX2
東本遺跡 4 次 SB302

終末期
新相（Ⅲ-2）



宮前川遺跡津田第Ⅰ地区第 3 調査地 SK7
平田七反地遺跡 SD1
樽味立添遺跡 SB13

図1　松山平野の弥生時代後期土器（S=1/12）

後期前葉

後期初頭(後期Ⅰ-1)は中期の凹線文土器の器形や施文の特徴が甕や壺の一部に残され、凹線文が沈線文へと移行する時期とされる。くの字状の口縁となる甕には口縁端部に擬凹線文(沈線文)をもつものがある。後期前葉(後期Ⅰ-2)には後期的な器種と形態が主体を占めるようになる。複合口縁壺、高杯、器台や支脚といった後期土器が成立するが、複合口縁壺、器台や支脚はまだ少ない。甕は比較的肩部の張りが強く、底部は上げ底のものと平底のものがみられる。口縁端部は面を持ち小さく上方に拡張して擬凹線文(沈線文)を施すものがある。外面はハケ調整、内面はケズリがみられる。

器台は胴部がくびれて口縁部と裾部が上下に大きく開く器形のものがある。相対的に大型のものは、双曲線状に長い胴部に凹線文を施す弥生時代中期(凹線期)の器台Aの系譜を引くもので、中部瀬戸内地域に由来する器台と考えている。松山平野では後期前葉にA3型式として現れる。凹線期の器台に比べて器高が低く口縁部と裾部の開きが横に大きく開き、口径30数cm以上、器高20数cmとなる。小型のものは、法量が口径10数cm～20数cm、器高10数cm～20cm弱で胴部が双曲線状にくびれるいわゆる普通器台で、これをB型式とする。小型で、B型式よりも胴部の直線化がみられ器高が伸びたC型式も存在する。後期前葉には大型器台は出現していない。

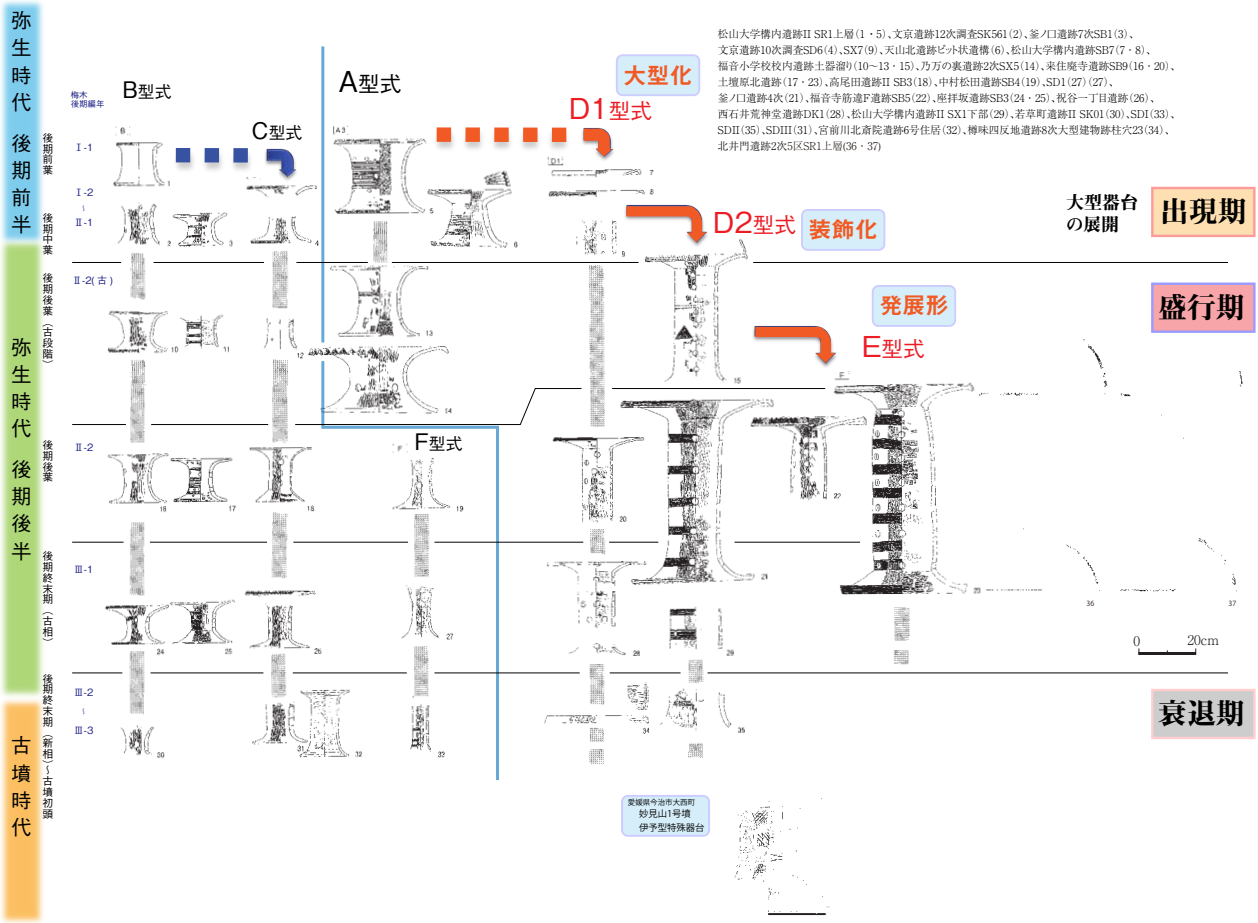


図2　伊予(松山平野)の器台の変遷（S=1/24)

後期中葉

後期中葉(Ⅱ-1)には複合口縁壺が一定量出土するようになり、長頸壺、外反口縁の高杯、多様な鉢、器台や支脚が定着し、中葉～後葉(Ⅱ-2)にかけては複合口縁壺や長頸壺が隆盛する。中葉(Ⅱ-1)の甕は口縁がくの字状に伸び、胴部は肩部よりやや下位で張り出し底部は平底となる。胴部外面はハケ調整で、内面にケズリもみられる。高杯では、脚部が筒状もしくはエンタシス状で、杯部と裾部が二段に開く装飾高杯が出現している。

器台は、普通器台B型式が一定量出土するようになり、この時期に、A3型式から胴部が筒状に長く伸長した西部瀬戸内系大型器台D1型式が出現している。

後期後葉

後葉(Ⅱ-2)には複合口縁壺と長頸壺や直口壺などの中型壺、鉢のほか大型器台、普通器台が増加する。甕口縁部は、くの字状に屈曲し上方に伸び、胴部は長胴気味の倒卵形を呈すものが増え底部は平底を呈す。壺や高杯・器台は全般にミガキを施すなど土器の作りが丁寧で、加飾傾向にある。

器台は、D1型式にやや遅れて後期中葉～後葉古段階に、D1型式より大型で加飾性の高いD2型式も出現する。D1型式は口径30cm以上、器高30cm以上、D2型式は口径35～50cm、器高50cm以上となる。大型器台は下垂した口縁部が多様な文様で装飾され、胴部には多段の円形透かしをもつ。とくにD2型式は口縁部の文様が多様で浮文が付加されるものも多く、胴部文様には多条沈線文と円形透かしが段を成して施されるなど装飾性が高い。後期後葉には、大型器台D1型式と

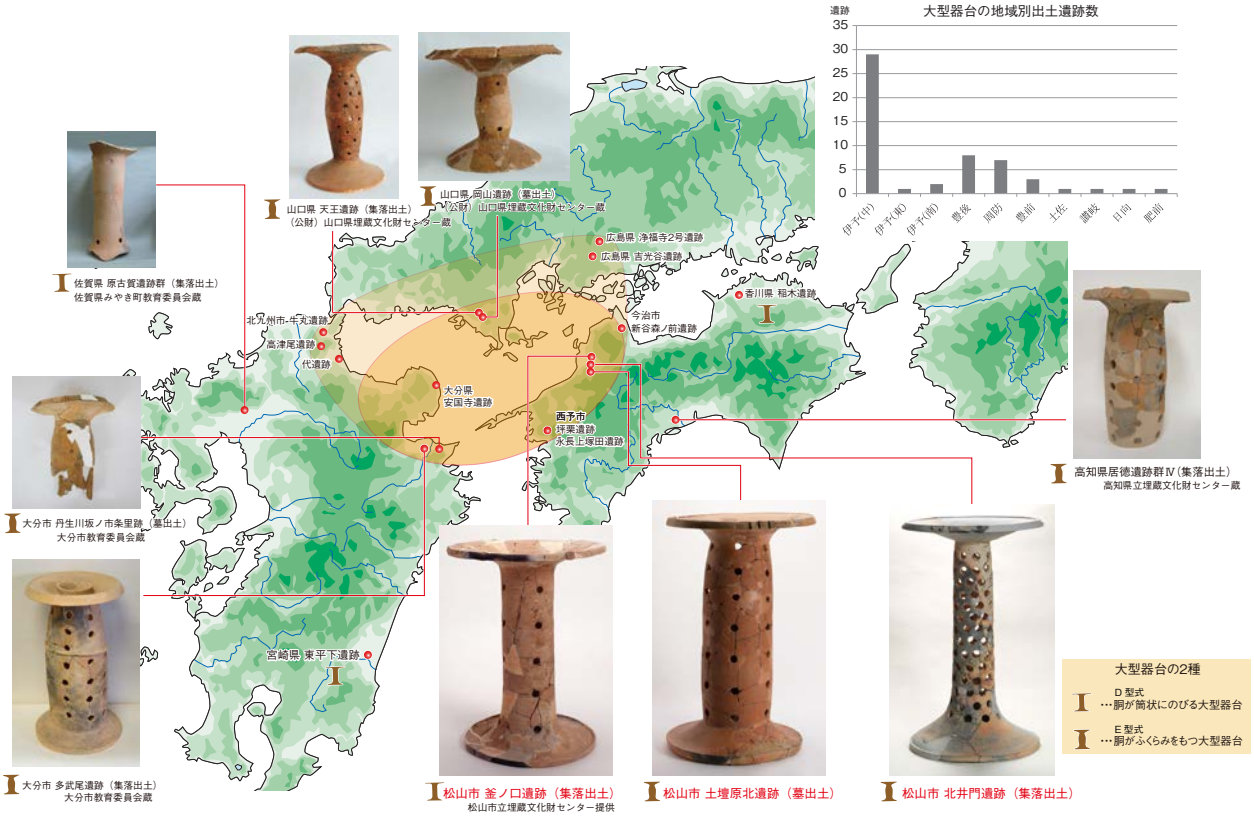


図3　西部瀬戸内地域に広がる大型器台

D2型式にくわえE型式が出現する。E型式は胴部上部がすぼまり、中位をエンタシス状に膨らませたもので、D型式の発展形ととらえられる。D2・E型式の法量は出現期以降最大になり、釜ノ口遺跡4次や土壇原北遺跡、北井門遺跡2次調査などで器高が60～70cmを超えるものが出現している。また北井門遺跡2次のE型式の大型器台は細身で大型の円形透かしを多段斜め列状に施した独特のものであるが、同形態・同法量のものが同一遺跡内で多数出土しており、ある一定の規格が存在した可能性をうかがわせる。そして、この時期の大型器台D・E型式が西部瀬戸内地域へと広がりをみせている。F型式は普通器台で、胴部径は6～7cmと細身で独特の形状をもち高杯の脚部に類似する。

松山平野では弥生時代後期中葉～後葉にかけて、集落内で多量の土器が廃棄された土器溜まりが多く検出されるようになる。土器祭祀に用いられる器種は壺を中心として高杯・鉢・甕など多種類の土器に普通器台と大型器台が加わる事例が多い。土器祭祀の規模拡大と発展のなかで、松山平野では急速に大型器台の必要性が高まり発展を遂げたと考えられる(松村2018)。

後期終末期～古墳初頭

終末期以降、外面に平行タタキ痕を残す甕と鉢、支脚が急増し、高杯と器台は減少する。甕は、終末期古相(Ⅲ-1)には胴部中位が膨らみ、胴部上半にタタキが残される。終末期新相(Ⅲ-2)には胴部全面にタタキが残されるようになり、下膨れの胴部で底部が尖底気味となる。古墳初頭(Ⅲ-3)になると、畿内をはじめ山陰・吉備地域の外来系土器の流入がみられる。在地甕は外面にタタキを残し胴部下半が膨らみ、底部は尖底から丸底気味となる。

器台は終末期古相(Ⅲ-1)まで普通器台B・C・F型式と大型器台D1・D2型式が一定量認められ、大型器台の盛行が続くが、終末期新相(Ⅲ-2)以降は大型器台の確実な出土事例は減少し衰退傾向となる。このあと西部瀬戸内系大型器台はみられなくなるが、今治市妙見山1号墳で伊予型特殊器台が突如出現しており、古墳時代前期まで伊予の器台文化が継続していると考えられる。

(2)　松山平野の遺跡群

松山平野は四国西部を流れる石手川と重信川によって形成された沖積平野で、東西20km、南北17kmの西部瀬戸内地域最大の平野である。

松山平野の弥生時代遺跡群にかんする先行研究を振り返っておこう。弥生時代遺跡の分布と遺跡群の研究は、1980年代後半から1990年代初頭に道後城北遺跡群の調査を中心に進展した。文京遺跡のほか祝谷六丁場遺跡、松山大学構内遺跡などが所在する道後城北遺跡群のまとまりが明確になり、松山平野内の遺跡分布と立地環境が整理された(谷若1988・梅木1991)。また下條信行氏によって「道後城北遺跡群」をはじめ、「和気遺跡群」・「三津遺跡群」・「久米遺跡群」・「砥部遺跡群」・「伊予遺跡群」の6つが設定された(下條1991)。下條氏が西瀬戸内のなかの松山平野の位置づけを明確にし、弥生時代前期から後期までの松山平野の遺跡群の動向や各遺跡群の評価を示したことは、以降の松山平野内の遺跡および個別遺物研究を大きく進展させることになった。その後1990年代には松山平野内の調査遺跡は急増し個別遺跡の報告書は多く刊行されたが、遺跡群にかんする研究が大きく進展することはなかった。2000年代に入り調査によって急増

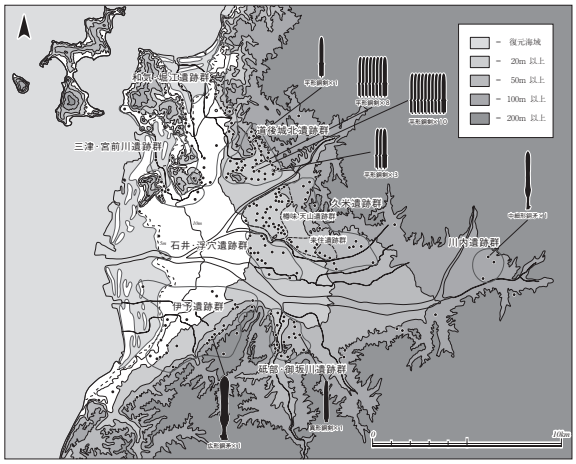


図4　松山平野の弥生時代遺跡群　(柴田2009より引用)

した弥生遺跡220遺跡を対象に、柴田昌児氏は「道後城北遺跡群」・「和気・堀江遺跡群」・「三津・宮前川遺跡群」・「久米遺跡群」・「石井・浮穴遺跡群」・「砥部・御坂川遺跡群」・「伊予遺跡群」・「河内遺跡群」の8つの遺跡群を設定した(図4・柴田2009)。柴田氏は、下條氏の設定した6つの遺跡群のまとまりは踏襲しながら遺跡分布を示して範囲を括り、新たに「石井・浮穴遺跡群」・「川内遺跡群」を設定した。また松山平野の弥生集落の分布と動態について、縄文時代晩期後半から古墳時代前期まで8段階に分けて説明し、「道後城北遺跡群」の文京遺跡の出現と解体について評価を行った。

松山平野内の弥生時代遺跡群の動向をみるうえで、下條氏と柴田氏の設定した遺跡群は、調査遺跡が増加した今日まで大きく変更される点は見当たらない。本稿では、下條氏と柴田氏の設定した遺跡群に依拠しながら、名称については柴田氏の8つの遺跡群を引用して論を進めたい。

道後城北遺跡群

松山平野北東部に位置し、石手川によって形成された扇状地の北側の道後・祝谷地区から松山城の城山付近まで広がる。弥生時代中期後半から後期では文京遺跡・松山大学構内遺跡・若草町遺跡などがある。

和気・堀江遺跡群

松山平野北部の海岸部に位置する南北6～7km、東西2km弱の低地で、和気・堀江地区に広がる。弥生時代には、平野北部の海岸線は現在より南側に入り込み、入り江状の地形を呈していたと考えられている(柴田2009)。縄文時代晩期の船ケ谷遺跡・大渕遺跡、弥生時代後期では座拝坂遺跡がある。

三津・宮前川遺跡群

松山平野北西部の海岸部からわずかに内陸の大峰ケ台丘陵周辺と宮前川流域に広がる低地で、三津・北斎院地区付近に広がる。弥生時代には、平野北西部の海岸線は現在より東側に入り込み、浜堤列や入り江状の地形が広がり周辺に汽水域が展開していたと考えられている(柴田2009)。古墳時代前期の宮前川北斎院遺跡などがある。

久米遺跡群

松山平野東部に位置し、石手川によって形成された扇状地の南側と小野川の北側から来住台地上まで広範囲に広がる。柴田氏は、「久米遺跡群」のなかを「樽味 - 天山遺跡群」と「来住遺跡群」に分けている。石手川の南側に樽味・桑原・中村地区、小野川の北岸に天山・福音寺地区、来住台地上に久米地区があり、これらの地区に「樽味 - 天山遺跡群」、来住台地上東部に「来住遺跡群」が広がる。弥生時代後期から古墳時代には「樽味 - 天山遺跡群」で樽味四反地遺跡・釜

ノ口遺跡・東本遺跡・福音小学校構内遺跡などの遺跡が密集しており、「来住遺跡群」では来住町遺跡・来住廃寺などが認められる。

石井・浮穴遺跡群

松山平野中央部に位置し、久米遺跡群の南側に流れる小野川と重信川に挟まれた沖積低地に遺跡群が形成されている。北井門・石井・浮穴地区に広がり、弥生時代後期後半には北井門遺跡・西石井遺跡・東石井遺跡などがある。

砥部・御坂川遺跡群

松山平野南東部の砥部町に位置し、重信川の支流である砥部川・御坂川によって形成された河岸段丘上に遺跡群が形成される。弥生時代後期には土壇原北遺跡・土壇原IV遺跡・水満田遺跡などがある。

伊予遺跡群

松山平野南部の伊予市・松前町に位置し、砥部・御坂川遺跡群の西側から重信川下流域左岸に遺跡群が形成される。弥生時代の遺跡は調査事例が少ないが、行道山遺跡・向山遺跡・横田遺跡・下三谷篠田・鶴吉遺跡などがある。

川内遺跡群

松山平野東側奥部の東温市に位置し、重信川上流域に遺跡が散在的に分布している。弥生時代の遺跡は宝泉遺跡・揚り畑遺跡などがある。

(3)　松山平野の弥生時代後期遺跡の変遷

次章で松山平野の大型器台出土遺跡群を取り上げるが、その前に弥生時代後期遺跡の消長と変遷を概観しておく。

弥生時代中期後葉には道後城北遺跡群で文京遺跡を核とした大規模拠点集落が形成されるが、後期前半には文京遺跡が解体し、集落は各所に小規模な単位で拡散するようである(柴田2009)。また久米遺跡群では、中期後葉から後期前半にかけて来住遺跡群が衰退し、樽味‐天山遺跡群で集落経営が始まる。

弥生時代後期後半には久米遺跡群(樽味‐天山遺跡群)で遺跡数が増加し、規模の大きな集落が密集して確認されるようになる。福音小学校構内遺跡・釜ノ口遺跡・東本遺跡・樽味高木遺跡など後期中葉から終末期まで継続する集落が多くみられる。このころに平野中央部の石井・浮穴遺跡群でも遺跡数の増加が顕著で、西石井遺跡や北井門遺跡など大規模集落遺跡が出現している。砥部・御坂川遺跡群では後期後半から終末期にかけて土壇原IV遺跡・土壇原北遺跡で土壙墓を主体とした集団墓が形成され、同時期の集落である土壇原XII遺跡も存在する。

弥生時代終末期から古墳時代初頭になると、樽味四反地遺跡では溝によって区画された大型総柱建物が検出されており、久米遺跡群(樽味‐天山遺跡群)において首長居館の出現が認められる。このほか、城北遺跡群の若草町遺跡や石井・浮穴遺跡群の北井門遺跡など後期後半から古墳時代まで継続する集落がある。一方で、三津・宮前川遺跡群の宮前川北斎院遺跡では古墳時代前期の外来系土器を多く含む港湾性集落(柴田2009)が出現している。

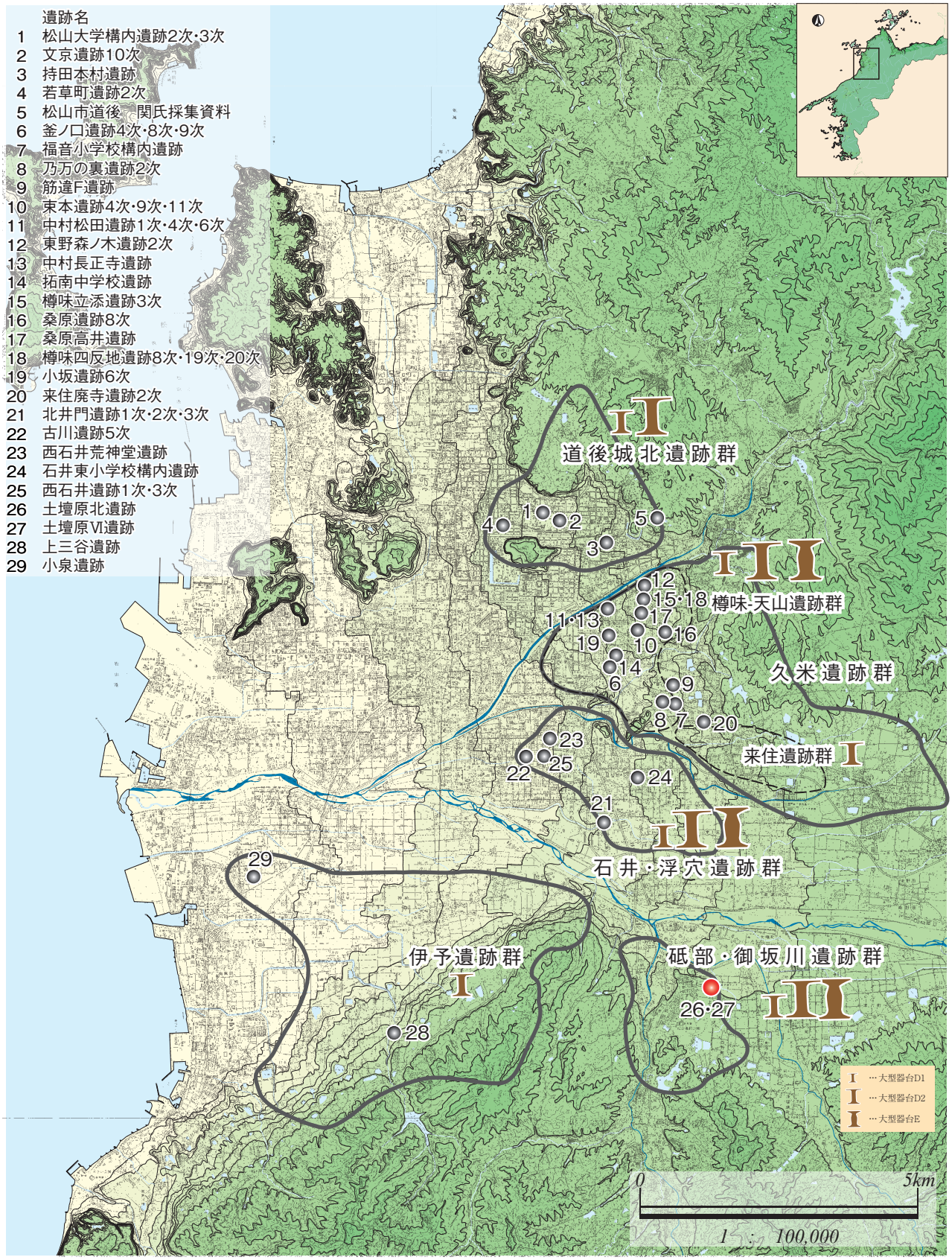


図5　松山平野の大型器台出土遺跡

3　松山平野の遺跡群と大型器台の出現と画期

(1)　大型器台出土の遺跡群

現在までに確認されている松山平野の大型器台出土遺跡は29遺跡、出土点数は138点を数える(図5・表1・2)*1・2。大型器台出土数を遺跡群ごとにまとめ出土数の偏りや傾向をとらえておきたい。

遺跡群ごとの出土点数に注目すると、和気・堀江遺跡群で0、三津・宮前川遺跡群で0、道後城北遺跡群で5遺跡19点、久米遺跡群(樽味 - 天山遺跡群)で14遺跡62点、久米遺跡群(来住遺跡群)で1遺跡1点、石井・浮穴遺跡群で5遺跡48点、砥部・御坂川遺跡群で2遺跡6点、伊予遺跡群で2遺跡2点、川内遺跡群で0を確認している。久米地区や石井・浮穴地区は松山市内でも宅地や道路など都市開発に伴う調査遺跡が集中している地区であるが、それを考慮しても、久米遺跡群(樽味 - 天山遺跡群)と石井・浮穴遺跡群の出土点数の多さは際立っている。確認されている弥生時代後期遺跡29のうち24は集落遺跡であるのに対し、砥部・御坂川遺跡群の土壇原VI遺跡・土壇原北遺跡の2遺跡6点は墓域にともなう出土、関氏採集資料と伊予遺跡群の2遺跡は採集資料である。

続いて大型器台の形状の違いに着目し、遺跡群ごとの出土傾向をみておこう。大型器台の形状は胴部が筒状のD1型式、D1型式よりも大型のD2型式、胴部がエンタシス傾向を示すE型式と順に発展する。道後城北遺跡群ではD型式のみ確認され、D2型式よりもD1型式が主体となる。久米遺跡群(来住遺跡群)は1点でD1型式のみ確認される。これに対して、出土遺跡および出土数が多くD2型式とE型式ともに出土しているのは、久米遺跡群(樽味 - 天山遺跡群)と石井・浮穴遺跡群の2つである。久米遺跡群(樽味 - 天山遺跡群)ではD型式が主体でD2型式の比率が高く、E型式がともなう。石井・浮穴遺跡群ではD1・D2型式とE型式が同数程度で、E型式の比率が他の遺跡群よりも高いことが注目される。砥部・御坂川遺跡群は墓域にともなう出土で数が6点と限られるが、D2型式とE型式が出土し、久米遺跡群(樽味 - 天山遺跡群)と石井・浮穴遺跡群に同調しているようにみえる。伊予遺跡群ではD型式か判断が難しい小片であるが、採集資料が2点ある。

表1　松山平野の大型器台出土遺跡と数量

遺跡群	番号	遺跡名	遺跡の性格	D1・D2 /(D2の数)	E	その他	大型器台の点数	点数計
道後城北遺跡群	1	松山大学構内遺跡(2・3次調査)	集落	11 / (5)		A3	11	19
	2	文京遺跡10次	集落	1			1	
	3	持田本村遺跡	集落	1			1	
	4	若草町遺跡Ⅱ(2次調査)	集落	2 / (1)			2	
	5	関氏採集資料		4 / (1)			4	
久米遺跡群(樽味－天山遺跡群)	6	釜ノ口遺跡4次・8次・9次	集落	7 / (6)		A3	7	62
	7	福音小学校構内遺跡	集落	14 / (6)		A3	14	
	8	乃万の裏遺跡2次	集落	2 / (1)		A3	2	
	9	筋違F遺跡	集落	4 / (2)	2		6	
	10	束本遺跡4・9・11次調査	集落	12 / (8)			12	
	11	中村松田遺跡1・4・6次調査	集落	7 / (1)			7	
	12	東野森ノ木遺跡2次	集落	1 / (1)			1	
	13	中村長正寺遺跡	集落	1			1	
	14	拓南中学校構内遺跡	集落	2	1		3	
	15	樽味立添遺跡3次	集落	1 / (1)			1	
	16	桑原遺跡8次	集落	2 / (2)		妙見山類似	2	
	17	桑原高井遺跡1次	集落	1 / (1)			1	
	18	樽味四反地遺跡8・19・20次	集落	4			4	
	19	小坂遺跡6次調査	集落	1			1	
久米遺跡群(来住遺跡群)	20	来住廃寺2次	集落	1			1	1
石井・浮穴遺跡群	21	北井門遺跡1次・2次・3次調査	集落	5	21		26	48
	22	古川遺跡5次調査	集落	1			1	
	23	西石井荒神堂遺跡	集落	3			3	
	24	石井東小学校構内遺跡	集落	2			2	
	25	西石井遺跡1次・3次	集落	16 / (4)			16	
砥部・御坂川遺跡群	26	土壇原北遺跡	墓域	1	1		2	6
	27	土壇原VI遺跡	墓域	4 / (2)			4	
伊予遺跡群	28	上三谷遺跡（伊予市）		1 / (1)			1	2
	29	小泉遺跡		1			1	
				(D?を含む)	(E?を含む)			138

大型器台出土遺跡が集中し、なおかつ発展した大型器台D2型式とE型式が多数使用されているのが弥生時代後期後半から終末期にかけて比較的規模の大きな集落が継続する久米遺跡群(樽味・天山遺跡群)と石井・浮穴遺跡群、くわえて墓域が確認されている砥部・御坂川遺跡群である。対して、道後城北遺跡群では大型器台の盛行期といえる後期後葉の遺跡が少なく、出土数は多くない。平野の北部や西部、東奥部に目を向けると、和気・堀江遺跡群や三津・宮前川遺跡群、川内遺跡群では、後期集落はあるが現在までのところ大型器台出土遺跡が確認されていない。

これらのことから、松山平野内の弥生時代後期遺跡群のなかで、大型器台の集中する遺跡群と遺跡が存在していることは明らかで、大型器台の出土数と型式には偏在傾向が認められる。次節では大型器台の出現期と盛行期の遺跡、なかでも器台の展開において特徴的な大型器台をもつ遺跡についてふれたい。

(2)　大型器台の出現期

松山平野での大型器台の出現時期は後期中葉から後期後葉の古段階と考えられ、大型器台は道後城北遺跡群と久米遺跡群(樽味・天山遺跡群)でほぼ同時期に確認されている。

①道後城北遺跡群

道後城北遺跡群では、松山大学構内遺跡2次調査でD1型式の口縁部が2点と文京遺跡10次でD1型式の胴部が1点認められるが、いずれも小片で全形のわかるものが出土していない。これまでのところ、道後城北遺跡群では後期中葉にD2型式の出土は確認されていない。後期中葉以降文京遺跡が衰退傾向に入り、後期後葉には大型器台の出土が目立たなくなる。

②久米遺跡群

D1型式の出現は道後城北遺跡群と久米遺跡群のどちらが早いのか明らかではないが、後期中葉から後期後葉の古段階にかけてD1型式からD2型式へ急速に大型器台が発展したとみられるのが久米遺跡群(樽味‐天山遺跡群)である。

久米遺跡群(樽味‐天山遺跡群)では、福音小学校構内遺跡でD2型式が6点、D1またはD2型式が8点、乃万の裏遺跡2次でD2型式が1点、D1またはD2型式が1点、釜ノ口遺跡9次調査でD2型式が3点、D1またはD2型式が1点と大型器台出土遺跡が顕著に増加している。

大型器台D型式とA3型式は、普通器台よりも大型で口径と裾部径だけみると大差なく、加飾性が高い特徴が共通する。A3型式は福音小学校構内遺跡で7点、乃万の裏遺跡2次で2点、釜ノ口遺跡9次調査で3点、天山北遺跡で1点が確認され、大型器台の出現期に集中して多く、大型器台が盛行する後期後葉には減少する。つまり、大型器台D型式の出現時にA3型式がピークを迎えており、A3型式が大型器台D型式に置き換わっていく状況を示している。そして、A3型式がこの時期に松山平野内で久米遺跡群(樽味‐天山遺跡群)に集中することも近辺での大型器台の出現と発展を示唆するものと思われる。いち早く大規模な大型器台を用いた祭祀が盛んに行われ、器台の発展において平野内にも大きな影響を与えていた遺跡群が久米遺跡群(樽味‐天山遺跡群)であるということができる。

福音小学校構内遺跡

弥生時代後期の竪穴建物が7棟検出されているが、出土遺物が少なく時期の詳細は不明である。土器溜まりや溝出土土器からみると後期中葉から後葉を中心とした時期の集落とみられる。竪穴建物SB15の床面直上で分銅形土製品が1点出土しており、分銅形土製品を用いた祭祀が後期の大型器台の祭祀とどう関わるか考えるうえでも注目される。居住域から約100m離れて、弥生時代後期後半の壺棺墓5基が検出されている。

福音小学校構内遺跡は大型器台の出土が最多で、祭祀空間(儀礼空間)が広がっていた可能性が示されている(梅木他編1995)。祭祀にかかわる遺構として、方形周溝が巡る性格不明遺構SX300と18m×16mの大型の土器溜まりが１ヶ所確認されている。土器溜まりから弥生土器が多量に出土し、破片まで含めた土器総数2505点の器種組成は器台110点のほか甕1144点、壺792点、鉢65点、高杯306点、支脚43点、ミニチュア土器等45点であるという(梅木他編1995)。また絵画・記号土器が多数出土している。なかでも長頸壺の上半部に孤文と龍のヒレ状の文様が2個組み合う文様(通称ブタ耳)が特徴的で、同じモチーフのものが約70点あると報告される。土器祭祀のなかでこの絵画・記号をもつ長頸壺と大小の器台はセットで用いられた可能性が高い。このほか中部瀬戸内系の壺や高杯、西南四国型甕など外来系土器が複数確認され、外来系土器も祭祀の場に持ち込まれたものと推定される。

土器溜まりからは器台A3・B・C・D1・D2型式が出土している。器台110点のうち大型器台D1・D2型式は14点認められ、D2型式については平野内で最も早い時期に出現している。一遺跡からこれほど多くの器台が出土している遺跡は他に見当たらず、現状では福音小学校構内遺跡近辺で大型器台D1型式からD2型式へと発展した可能性が高いと考えている。大型器台口縁部の文様は三角鋸歯文や沈線文が多く、半截竹管文も多用している。D2型式の胴部文様には縦列の円形透かしと多条の沈線文の組み合わせが徹底しており、この文様は後期後葉以降に平野内にも広がっている。一方、平野内では他に例がない三角鋸歯文や綾杉文、半截竹管文を胴部文様として用いるものが1点存在し(図7-1)、これを福音寺小学校構内遺跡の独特な文様としておきたい。

乃万ノ裏遺跡

福音小学校構内遺跡南側に隣接する集落遺跡で、SD10は福音小学校構内遺跡SD3と同一遺構となる。SD10と性格不明遺構SX5からは福音小学校構内遺跡と帰属時期が同じ弥生時代後期中葉～後葉の土器が多量に出土し、器台や線刻をもつ壺、多条沈線で加飾された直口壺が出土する。頸部に多条沈線、肩部にノの字の刺突文をもつ吉備系の長頸壺は、1点(報告番号241)が乳白色の色調を呈した搬入土器で、1点(報告番号242)は松山平野で製作された模倣土器とされる。

器台はA3型式とD1・D2型式が共伴し、福音小学校構内遺跡と同じ様相を示す。A3型式の器台は口縁部が下垂し、文様は三角鋸歯文が使用されるなどD2型式と共通する要素が多い。

釜ノ口遺跡9次調査

釜ノ口遺跡一帯は弥生時代後期の集落が継続的に営まれている。釜ノ口遺跡9次調査では弥生時代後期後葉古段階の溝SD3とSD6から多量の土器や木器が出土している。豊後地域からの搬入品とされる壺がSD3とSD6から1点ずつ、SD3から西南四国型甕形土器11点、壺4点が出土してい

る。このほか線刻土器が36点と多い。

大型器台はD2型式が3点、D1またはD2型式が1点で、これらと器台A3型式が共伴し、大型器台D2型式の胴部には三角鋸歯文が使用され福音小学校構内遺跡と共通する。

(3)　大型器台の盛行期

松山平野での大型器台の盛行期は後期後葉～終末期古相と考えられ、この時期には、道後城北遺跡群、久米遺跡群(樽味‐天山遺跡群)、石井・浮穴遺跡群、砥部・御坂川遺跡群、伊予遺跡群など松山平野の広範囲で出土がみられるようになる。大型器台のD型式とE型式がともにまとまった数量で出土しているのは、久米遺跡群(樽味‐天山遺跡群)と石井・浮穴遺跡群、砥部・御坂川遺跡群の3つで、これらの遺跡群を中心にして大型器台を用いた祭祀が盛行し、平野外の西部瀬戸内地域にも影響を与えていたと考えられる。

①道後城北遺跡群

道後城北遺跡群では後期後葉の遺跡は少なく、終末期古相には松山大学構内遺跡3次調査でD1型式が2点、D2型式が2点、持田本村遺跡でD型式が1点のほか、関氏採集資料でD1型式が3点、D2型式が1点認められる。詳細は不明であるが関氏採集資料4点は墓域にともなう可能性があると報告されている(名本2003)。

②久米遺跡群

久米遺跡群(樽味‐天山遺跡群)では、筋違F遺跡でD1型式が1点、D2型式が2点、E型式が2点、東本遺跡4次・9次・11次調査でD1型式が1点、D2型式が6点、DまたはE型式が5点、釜ノ口遺跡4次調査でD2型式が3点、中村松田遺跡1次・4次・6次調査でD2型式が1点、D型式が6点、桑原遺跡8次でD2型式が2点、桑原高井遺跡1次でD2型式が1点、樽味立添遺跡3次でD2型式が1点、東野森ノ木遺跡2次でD2型式が1点、拓南中学校構内遺跡でD型式が1点、E型式が1点、DまたはE型式が1点、中村長正寺遺跡でDまたはE型式が1点を数える。

筋違F遺跡

筋違遺跡A～I遺跡は福音小学校構内遺跡の西側に隣接し、弥生時代後期後半期の集落が連続している。筋違F遺跡では円形竪穴建物SB5の上面に土器溜まりが検出され、甕、鉢、複合口縁壺、直口壺や長頸壺、装飾高杯、加飾の著しい細頸の複合口縁壺、線刻や記号のみられる壺胴部が出土している。

器台出土量は多く13点報告されており、普通器台8点と大型器台が5点(D1型式が1点、D2型式が2点、E型式が2点)ある。E型式は胴部がエンタシス状かつ細身で、縦列に並ぶ円形透かしが施され、口縁部文様は櫛描波状文とS字状浮文が組み合う(図7-4)。E型式の大型器台のなかでも筋違F遺跡は細身の胴部で独特の形態をもち、口縁部の文様構成も櫛描波状文とS字状浮文は後期後葉以前の大型器台では使用されていない文様であり特徴的である。E形式の出現地までは特定できないが、筋違F遺跡は平野内でも早い後期後葉にE型式が出現している数少ない遺跡である。

東本遺跡9次調査

東本遺跡1～12次調査は、弥生時代後期後葉から終末期にかけて大型・中型・小型の竪穴建物

が30棟以上密集する大規模集落の一つである。特に東本遺跡4・9・10次調査付近では大型円形竪穴建物が多くまとまって検出され、4次調査の大型円形竪穴建物SB302から破鏡が出土するなど、集落の中心部がこの付近に所在すると考えられている(栗田ほか編2011)。また4次調査では竪穴建物の内部構造として、東部瀬戸内地域で特徴的な「10(イチマル)」中央土坑が存在することが指摘されている(柴田2009)。5次調査の方形竪穴建物では三角状鉄片が出土し、鍛冶関連遺構の可能性も報告されている。

9次調査では、円形竪穴建物SB101の上面で土器溜まりが検出され、甕、鉢、複合口縁壺、直口壺や長頸壺、装飾高杯、加飾の著しい細頸壺、線刻や記号のみられる壺胴部が出土している。器台は多量で20点報告され、そのうち大型器台は10点(D2型式が6点、DまたはE型式が4点)である。大型器台口縁部文様は半截竹管文を多用し、櫛描波状文と円形や棒状浮文を多く用いる。胴部円形透かしは多段で縦列と斜め列状に施すものがあり、筋違F遺跡のE型式に類似する。

釜ノ口遺跡4次調査

釜ノ口遺跡は東本遺跡の南西約500mと近接した位置にある。1～11次調査があり、弥生時代後期の竪穴建物は1・2・6～8・10次調査および隣接する拓南中学校遺跡で検出されている。8次調査では、竪穴建物SB2からガラス小玉が多数出土し、溝SD3から破鏡の出土もある。釜ノ口遺跡一帯には集落が継続的に営まれ、弥生時代後期の大規模集落の一つといえる。

4次調査では大型器台D2型式が3点出土しており、そのうち1点は口径51.2cm、器高64.5cm、裾部径41.4cmを測りD2型式最大法量をもつ。大型器台口縁部文様の特徴は沈線文の上に円形浮文が付され、胴部には多段で縦列の円形透かしと多条沈線文が整然と並ぶ。福音小学校構内遺跡にもみられる形態と文様構成であるが、典型的なD2型式として釜ノ口遺跡4次(図7-3)を挙げておきたい。

③石井・浮穴遺跡群

北井門遺跡2次・3次調査で、E型式が破片を合わせ21点と一遺跡で集中的に出土している。このほか西石井荒神堂遺跡でD1型式が3点、石井東小学校構内遺跡でD1型式が2点、西石井遺跡1次・3次調査でD1型式とD型式とみられる破片が8点、D2型式が4点確認される。

北井門遺跡2次・3次調査

北井門遺跡1～3次調査では弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけて竪穴建物42棟が集中して検出されており、大規模な集落の形成が認められる。竪穴建物の分布は北井門遺跡の西側と東側に分かれ、間に150mほど遺構の存在しない空白地帯が広がる。西側の2・3次調査区では弥生時代後期後葉から終末期の竪穴建物が12棟検出されているが、竪穴建物の分布はまばらで広場のような空白地も広がっている。土製勾玉・管玉、装飾のある土製紡錘車や椅子形土製品、大型器台の破片が出土する竪穴建物があり、竪穴建物付近のSR-1から破鏡の出土もみられるなど、西側では祭祀に関わる遺物の出土が集中している。東側の1次調査区では30棟程の竪穴建物が密集しており、終末期の鍛冶炉や古墳時代前期の前方後方墳も検出されている。東側では後期後葉の大型器台の出土は報告されていない。

西側の2次調査区で自然流路SR-1が東西約50mの規模で検出された。弥生時代後期後葉の土器

を大量に廃棄した状況が認められ、大型器台のほか匙状土製品や環状木製品など祭祀具と考えられる遺物もみられる。SR-1周辺で大規模な祭祀が行われた可能性が指摘されている。また大量に残された土器の出土状況は良好で、遺物の分布状況から土器の廃棄単位が想定されている。流路方向に5～8mごとを1単位として1～5群の土器のまとまりがあり、各群の器種に共通性が認められ、加飾のある壺、甕、鉢、大型器台が3～4個体ともなうと分析されている(多田2012)。

大型器台は2次・3次調査あわせて21点と多量に出土し、全てが同形態のE型式とみられる。大型器台口縁部文様の特徴は櫛描波状文とS字状浮文で、胴部が細身となる特徴は筋違F遺跡に類似するが、胴部の円形透かしを多段斜め列状に施す独特の特徴が付加されている(図7-5)。同じ法量で同形態、同じ文様をもつ大型器台が10点以上確認されており、一定の規格が存在したとも考えられ同時期か短期間にまとめて製作された可能性を指摘しておきたい。

④砥部・御坂川遺跡群

砥部・御坂川遺跡群では、土壇原VI遺跡でE型式が2点、DもしくはE型式とみられる破片が2点、土壇原北遺跡でD1型式が1点、E型式が1点出土している。

土壇原VI遺跡

松山平野では壺棺墓を除くと、弥生時代後期の墓の調査報告事例がほとんどない。土壇原VI遺跡は数少ない墓の調査であり、台地上に形成された墳丘をもたない土壙墓群で約60基が密集して検出された。36号土壙墓は土壙墓群のなかで唯一副葬品を有し、床面から方格乳文鏡1点、管玉5点、鉄製刀子1点が出土した。配置からみても周囲の土壙墓群とは溝で隔てられ、他の土壙墓よりも優位性が認められる。土壙墓群の間に複数個所で供献土器群が検出されている (松村2022)。

図7-2は口径43.1cm、裾部径38cm、器高60.7cm、胴部径16.5～18.6cmに復元される大型器台D2型式である。口縁部と裾部は大きく外反して開き、下垂した口縁端部には5本1単位の櫛描波状文と刻目を入れた2個1単位の棒状浮文を付す。胴部は筒状であるが上部でわずかに膨らみをもつ。胴部には縦列に8段の大型円形透かしを施し、3段目と4段目の間に5本1単位とした同一工具で描かれた櫛描波状文と沈線文が施される。胴部に櫛描波状文を加える特徴が松山平野内では少なく注目される。

土壇原北遺跡

土壇原北遺跡は土壇原VI遺跡に隣接する。開墾中の発見で、完形の大型器台のほか普通器台、直口壺・細頸壺、装飾高杯、高杯、脚台付きの鉢、小形甕がまとまって出土し、土壙墓への供献土器群として報告された(長井1977)。

図7-6は完形出土の大型器台E型式で口径46.3cm、裾部径42.4cm、器高74.0cm、胴部径17.8～22.6cmを測る。松山平野内で出土した大型器台の中で最大法量をもつ。太いエンタシス状を呈す胴部から屈曲して口縁部は大きく外反して開き、口縁端部は上下に拡張しやや下垂気味に形成されている。口縁部には小型の半截竹管文を3段列で施文し、刻目を入れた棒状浮文を付している。胴部には縦列の大型円形透かしと多条沈線文を7段にわたり施す。外面に赤色顔料が塗られ、法量・形態・文様ともに松山平野の大型器台のなかでも特別なものと位置づけることができ、際立っている。

(4)　大型器台の衰退期

大型器台の衰退期は終末期新相～古墳初頭と捉えられ、この時期には道後城北遺跡群と、石井・浮穴遺跡群の遺跡でわずかに出土がみられる。道後城北遺跡群では若草町遺跡2次調査でD1またはD2型式が2点、石井・浮穴遺跡群では北井門遺跡でD1型式とD型式が5点、古川遺跡5次調査でDまたはE型式が1点認められる。

久米遺跡群(樽味 - 天山遺跡群)では樽味四反地遺跡でD型式が4点と、桑原遺跡で妙見山1号墳の伊予型特殊器台に類似した器台片の出土がある。

①久米遺跡群

樽味四反地遺跡

樽味四反地遺跡は、東本遺跡・釜ノ口遺跡の集落から北東に500mから1kmの位置にある。古墳時代初頭の大型総柱建物が2棟並列して検出され、首長居館の出現と評価されている。久米遺跡群(樽味 - 天山遺跡群)の成熟した地域共同体としての突出性(柴田2009)を示している。

大型器台はD1またはD2型式の口縁部小片が4点あり、そのうち1点は8次調査大型総柱建物の柱穴23からの出土である。小片であることから大型総柱建物の柱構築時の埋土に含まれた遺物とみられる。つまり大型総柱建物の構築以前で、首長居館の出現直前まで大型器台が使用されていたと考えたい。

桑原遺跡

近年発掘調査された桑原遺跡8次調査では、竪穴建物SB2から弥生後期土器の大型器台D2と伊予型特殊器台に類似した器台裾部が確認されており(新原2023)、ここで紹介しておきたい(図6)。

SB2は円形(A)と隅丸方形(B)の2棟の竪穴建物の重複があり、(A)から弥生後期後半の周防系複合口縁口縁壺(図6-1)と大型器台D2型式が2点(図6-4・5)、(B)から古墳時代初頭の二重口縁壺(図6-2)が出土しているという。

伊予型特殊器台は口縁部と裾部が大きく開く弥生器台の形態を踏襲しており、古墳時代前期まで伊予の器台文化が継続していると考えられてきたが、これまで西部瀬戸内系大型器台と伊予型特殊器台との間に関係を示す資料がなかった。

伊予型特殊器台に類似した器台裾部(図6-3)は竪穴建物(A・B)どちらにともなうものか明らかではないが、弥生後期後半から古墳初頭までの時期におさまるならば、西部瀬戸内系大型器台と伊予型特殊器台との間をつなぐ集落出土の新出資料となるだろう[*3]。

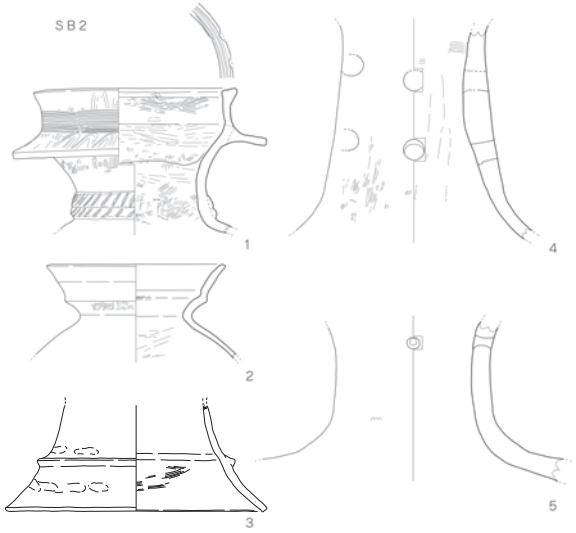


図6　桑原遺跡8次調査SB2出土土器　(S=1/8)

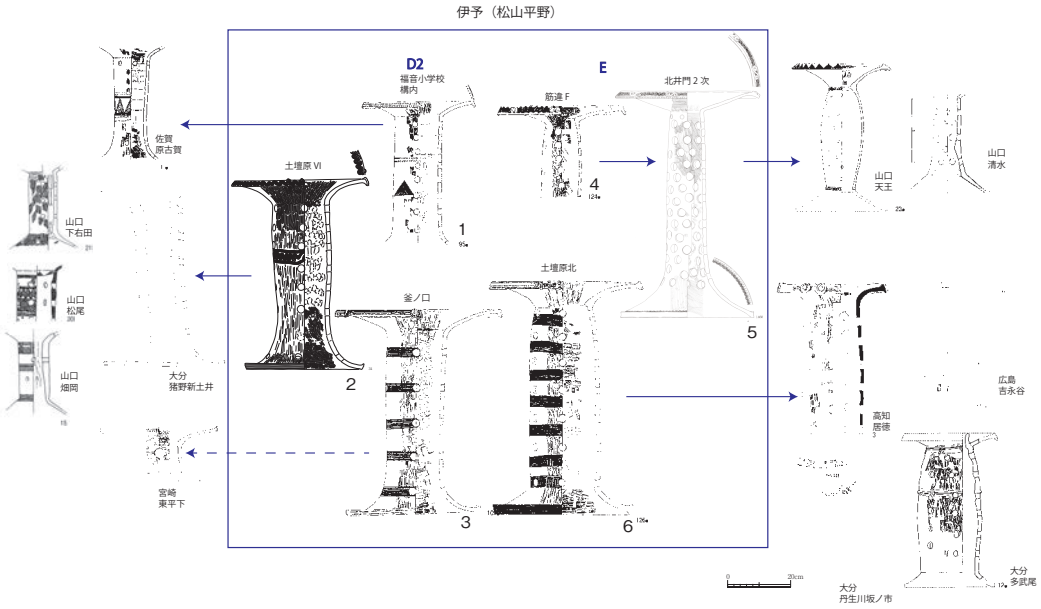


図7　西部瀬戸内地域に広がる伊予型の大型器台（S=1/20）

4　大型器台出土遺跡と伊予に特徴的な大型器台

これまでみてきた松山平野の大型器台出土遺跡と弥生時代後期の遺跡群の特徴についてまとめておきたい。

後期中葉以降の大型器台出現から発展には久米遺跡群(樽味‐天山遺跡群)が関わり、後期後葉から終末期古段階にかけて久米遺跡群(樽味・天山遺跡群)とともに石井・浮穴遺跡群や砥部・御坂川遺跡群が大型器台の展開に影響を与えた可能性を示した。これらの遺跡群は平野内の他遺跡群と比較しても大規模集落が集中しており、外来系土器や破鏡が集まる拠点的な集落も含まれている。また絵画・記号文をもつ土器、加飾の著しい土器、さらには祭祀関連遺物が多いことも共通している。絵画・記号文をもつ土器、加飾の著しい土器は祭祀に関わる性質の遺物で、大型器台とともに特定の場所や遺跡に集中することは、これらが使用される場面が似ており、松山平野では弥生時代後期中頃以降に大規模集落が出現していくなかで祭祀が集中して行われたといえる。使用される場面は特定できないが、福音寺小学校構内遺跡や北井門遺跡2次など大型器台がまとまって出土する集落内部には、祭祀に関連する空間(広場)や性格不明遺構が検出されていることも重要であろう。

また、発展過程において伊予地方で特徴的な大型器台を創出している遺跡を認めることができた。その大型器台の特徴は、松山平野内の他の遺跡にも共有され影響を与えている。例えば大型器台D2型式では、釜ノ口遺跡など胴部に多段で縦列の円形透かしと多条沈線文が整然と並ぶもの(図7-3)が挙げられるが、松山平野の他遺跡でも縦列の円形透かしと多条沈線文の文様は多く共有されている。大型器台E型式では、筋違F遺跡で胴部がエンタシス状かつ細身で、縦列に並ぶ円形透かしが施されており(図7-4)、北井門遺跡2次では筋違F遺跡に類似し、胴部の円形透かしを多段斜め列状に施すもの(図7-5)を創出している。

さらに伊予地方で特徴的な大型器台をモデルとして、西部瀬戸内地域にも胴部の形態や文様が

類似する大型器台が広がっていることを指摘しておきたい。大型器台D2型式では、福音寺小学校構内遺跡の三角鋸歯文と半截竹管文を胴部文様として用いるもの(図7-1)があるが、佐賀県原古賀遺跡で全く同じ文様構成の器台が知られている。土壇原VI遺跡では胴部に沈線文に加えて櫛描波状文が施されるもの(図7-2)があり、これと同様の文様が山口県松尾遺跡などで認められる。大型器台E型式では、山口県天王遺跡や清水遺跡の大型器台が筋違F遺跡 (図7-4)や北井門遺跡2次(図7-5)の影響を受けたものといえるであろう。そして土壇原北遺跡では太いエンタシス状を呈す胴部をもつもの(図7-6)があり、高知県居徳遺跡や大分県多武尾遺跡などの大型器台に影響を与えている。

おわりに

本稿では松山平野の大型器台出土遺跡と弥生時代後期の遺跡群の特徴について触れ、発展過程において伊予地方で特徴的な大型器台を創出している遺跡を取り上げた。後期中葉以降の大型器台出現から発展には久米遺跡群(樽味‐天山遺跡群)内の遺跡が最も大きな影響力をもち、福音寺小学校構内遺跡と佐賀県原古賀遺跡など松山平野外の遺跡で文様を共有する器台が存在している。後期後葉から終末期には久米遺跡群(樽味‐天山遺跡群)にくわえ石井・浮穴遺跡群、砥部・御坂川遺跡群からも西部瀬戸内地域に向け伊予型の大型器台の影響が広がっていると考えた。

さいごに、松山平野内の弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺跡・遺跡群の発展段階のなかで、大型器台や大型器台を用いた祭祀が首長墓や首長居館出現とどのように関わっていくのか問題が残されているが、筆者の力量不足で検討が及ばなかった。また西部瀬戸内地域の大型器台を出土する遺跡と松山平野内の遺跡との関連についても直接的なものであるのかさらに追求が必要であり、これについても今後の課題としたい。

註

*1　2024年3月時点の筆者による確認数であり、これ以外に遺漏もあると思われる。大型器台の出土点数は報告書等掲載遺物をカウントした。若草町遺跡2次調査と北井門遺跡1次調査は未報告資料で確認できたものがあり、筆者実測の上カウントしたものを含んでいる。

*2　表1には表2に記載したD・D1の可能性があるものはDに含み、同じくEの可能性があるものはEに含めた。口縁部のみの小片や胴部でも上下の屈曲部まで残存しないものはDまたはE型式としており、これについてはDのカウントに含めた。

*3　令和4年度の松山市埋蔵文化財年報に概要報告が掲載されている。器台については実見して確認したが、SB2の位置づけと時期の詳細については正式報告を待ちたいと思う。

参考文献

宇垣匡雅2000「鋸歯文をもつ土器―吉備の農耕儀礼と葬送儀礼―」『考古学研究』第47巻第2号　105～124頁

梅木謙一1991「松山平野の弥生後期土器―編年試案―」『松山大学構内遺跡』松山市文化財調査報告書第20集　107～118頁　松山市教育委員会

梅木謙一編1991『松山市道後城北遺跡群　松山大学構内遺跡―第2次調査―』松山市文化財調査報告書第20集松

山市教育委員会
梅木謙一他編1995『福音小学校構内遺跡―弥生時代編―』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興団埋蔵文化財センター
梅木謙一1996「伊予」『弥生後期の瀬戸内海－土器・青銅器・鉄器から見た領域と交通－』古代学協会四国支部発足10周年記念大会資料　古代学協会四国支部　58～61頁
梅木謙一2000「3伊予中部地域」『弥生土器の様式と編年』四国編　木耳社　211～282頁
梅木謙一2001「伊予中部の土器」『庄内式土器研究』XXIV 庄内式土器研究会　113～132頁
梅木謙一2015「愛媛県中予における複合口縁壺」『平成27年度瀬戸内海考古学研究会第5回公開大会予稿集』瀬戸内海考古学研究会　117～138頁
栗田茂敏ほか編2011『束本遺跡―9次・10次調査―、小坂遺跡―1次～6次調査-―、中村松田遺跡―5次・6次調査―』財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター　松山市文化財調査報告書第153集
下條信行1991「松山平野と道後城北の弥生文化―西瀬戸内の体外交流―」『松山市道後城北遺跡群　松山大学構内遺跡―第2次調査―』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興団埋蔵文化財センター 137～150頁
下條信行・松村さを里編2008「資料4　西部瀬戸内系大型器台集成」『妙見山1号墳(図版・資料編)』愛媛県今治市教育委員会・愛媛大学考古学研究室　39～58頁
柴田昌児2009「松山平野における弥生社会の展開」『国立歴史民俗博物館研究報告』第149集　197～231頁
新原佑典2023「桑原遺跡8次調査」『松山市埋蔵文化財調査年報』35　令和4年度　3～6頁
多田仁ほか編2012『北井門遺跡2次調査』(公財)愛媛県埋蔵文化財センター　埋蔵文化財発掘調査報告書第174集
谷若倫郎1988「道後城北遺跡の展開」古代学協会四国支部シンポジューム資料
長井数秋 1977「愛媛県土壇原北遺跡出土の弥生式土器」『ふたな　創刊号』伊予考古学会　1～11頁
名本二六雄2003「道後平野における弥生末期の墓制」『愛媛考古学15』愛媛考古学協会　42～69頁
松村さを里2008a「西部瀬戸内における弥生時代器台の展開について-伊予地方を中心に-」『妙見山1号墳(報告・論考編)』愛媛県今治市教育委員会・愛媛大学考古学研究室　335～355頁
松村さを里2008b「伊予地方における弥生時代器台の分布と変遷」『地域・文化の考古学』下條信行先生退任記念論文集　愛媛大学考古学研究室　125～140頁
松村さを里2018「四国の土器祭祀」『平成30年度瀬戸内海考古学研究会第8回公開大会予稿集』瀬戸内海考古学研究会　35～48頁
松村さを里2022「伊予の弥生墓に供えられた土器―土壇原VI遺跡の大型器台と供献土器―」『紀要愛媛』第18号　公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター　11～38頁
松村さを里・坪根伸也・下條信行 2020「講演会記録　鼎談！大型器台から探る弥生時代の豊予交流」愛媛県歴史文化博物館研究紀要第25号

挿図出典

図1：梅木編年2001・2015の土器を抽出して筆者作成。図2：松村2008aに加筆して筆者作成。
図3：筆者作成。図4：柴田2009の図1を引用し、遺跡番号を省いた。
図5：国土地理院2万5千地図をもとに(公財)愛媛県埋蔵文化財センターが作成した愛媛県地図を利用。筆者作成。
図6：新原2023より引用。図6-3のみ筆者実測。
図7：筆者作成。

(2024年4月4日)

表２　松山平野の大型器台一覧

	番号	(下條松村2008)集成番号	報告書等掲載番号	遺跡名	出土	型式	大型器台	大型器台数	法量				文様		備考	時期	所蔵・保管者	文献
									口径	器高	胴部径	底径	口縁部文様	胴部沈線文(　)内条数・その他文様				
道後城北遺跡群	1	3	177頁1150	松山大学構内遺跡Ⅱ(3次調査)	SR1上層	A3			31.4	25		30.8	退化凹線(沈線)文3条	多条沈線文、円形透3段	赤色顔料	後期前葉	松山市	松山市報告49集　1995
	2	2	33頁92	松山大学構内遺跡Ⅳ(6次調査)	SR1①層	A3			—	—		30.4	—	多条沈線文・羽状文、円形透１段		後期前葉	松山市	松山市報告115集　2007
	3	73	49頁152	松山大学構内遺跡(2次調査)	SB7	D1	○	1	31.4	—		—	なし	—		後期中葉	松山市	松山市報告20集　1991
	4	74	49頁153	松山大学構内遺跡(2次調査)	SB7	D1	○	1	32.6	—		—	退化凹線(沈線)文2条	—		後期中葉	松山市	松山市報告20集　1991
	5	72		文京遺跡10次	SX7	D1	○	1	—	—		—	—	円形透3段以上		後期前半	愛媛大学	愛媛大学報告Ⅲ　1991
	6	—	46頁206	持田本村遺跡	SD202	D？	○	1	(34.7)				半截竹管文2段・円形浮文(上に竹管文)	—		後期後葉～終末	松山市	松山市報告210集　2023
	7	82	217頁1539	松山大学構内遺跡Ⅱ(3次調査)	SR1南半部上層	D1	○	1	—	—		—	—	円形透2段以上		後期末葉(終末期古相)	松山市	松山市報告49集　1995
	8	94	116頁591	松山大学構内遺跡Ⅱ(3次調査)	SX1上部	D1	○	1	30.2	—		—	沈線文6条	—		後期末葉(終末期古相)	松山市	松山市報告49集　1995
	9	—	62頁262	松山大学構内遺跡Ⅱ(3次調査)	第Ⅳ層(弥生)	D1	○	1	(25.6)	—	—	—	円形浮文	—		後期末葉(終末期古相)	松山市	松山市報告60集　1997
	10	—	155頁941	松山大学構内遺跡Ⅱ(3次調査)	SR2南(②③区P11)	D1	○	1	(29.2)	—	—	—	半截竹管文2段・竹管文	—		後期末葉(終末期古相)	松山市	松山市報告60集　1997
	11	114	114頁572	松山大学構内遺跡Ⅱ(3次調査)	SX1下部	D2	○	1	—	—		—	—	沈線文2段(11･16)以上、円形透4段以上		後期末葉(終末期古相)	松山市	松山市報告49集　1995
	12	119	129頁690	松山大学構内遺跡Ⅱ(3次調査)	SP731	D2	○	1	39.8	—		—	沈線文6条	—		後期末葉(終末期古相)	松山市	松山市報告49集　1995
	13	—	62頁263	松山大学構内遺跡Ⅱ(3次調査)	第Ⅳ層(弥生)	D2	○	1	—	—	(16)	—	—	櫛描直線文5条、円形透2段以上		後期末葉(終末期古相)	松山市	松山市報告60集　1997
	14	—	172頁1115	松山大学構内遺跡Ⅱ(3次調査)	埋土2	D2	○	1	(34.7)	—	—	—	沈線文6条	—		後期末葉(終末期古相)か	松山市	松山市報告60集　1997
	15	—	214頁1501	松山大学構内遺跡Ⅱ(3次調査)	SR1上層	D2	○	1	(44.4)	—	—	—	沈線文3条・円形浮文	—	赤色顔料(ベンガラ)	後期末葉(終末期古相)か	松山市	松山市報告60集　1997
	16	121		若草町遺跡Ⅱ(2次調査)	SDⅡ	D2	○	1	—	—		—	—	沈線文(4)・斜沈線文(2)、円形透1段以上		後期終末～古墳初頭	愛媛県	未報告
	17	122		若草町遺跡Ⅱ(2次調査)	SDⅡ	D1/D2	○	1	—	—		—	—	沈線文(7)・三角綾杉文		後期終末～古墳初頭	愛媛県	未報告
	18	129	33頁7	関氏採集資料		D1	○	1	45.6	—		—	沈線文	—		後期後葉～終末	松山市	松山市報告85集　2002
	19	130	33頁8	関氏採集資料		D1	○	1	43.6	40.8		34.5	波状文・浮文・半截竹管文	円形透9段		後期後葉～終末	松山市	松山市報告85集　2002
	20	131	33頁9	関氏採集資料		D1	○	1	—	—		36	—	円形透5段以上		後期後葉～終末	松山市	松山市報告85集　2002
	21	132	33頁12	関氏採集資料		D2	○	1	—	—		—	—	沈線文3段(3・9・9)以上、円形透3段以上		後期後葉～終末	松山市	松山市報告85集　2002
久米遺跡群(樽味・天山遺跡群)	22	1		釜ノ口遺跡8次	SB3	A3			—	—		—	—	裾部に凹線文3条		後期前葉	松山市	松山市報告60集　1997
	23	4		天山北遺跡	ピット状遺構	A3			28.5	19.8		26	退化凹線・竹管文・内面波状文	沈線文2段(6・3)・刺突文、円形透2段		後期中葉	松山市	松山市報告2集　1973
	24	—	26頁68	釜ノ口遺跡9次	SD3(2層)	A3？			35.2	—	—	—	沈線文	—		後期後葉(古)	松山市	松山市報告174集　2014
	25	—	26頁69	釜ノ口遺跡9次	SD3(2層)	A3			—	—	22	—	—	沈線文2段(3・3)、円形透(径2.0cm)2段		後期後葉(古)	松山市	松山市報告174集　2014
	26	—	44頁189	釜ノ口遺跡9次	SD3(2層)	A3			29.4	18.4	11.2	25.5	竹管文(2個一対・8ヶ所)	円形透(径1.5cm)2段、裾部に竹管文(2個一対・8ヶ所)		後期後葉(古)	松山市	松山市報告174集　2014
	27	—	26頁70	釜ノ口遺跡9次	SD3(2層)	D2	○	1	—	—	18.8	—	—	円形透(径1.6cm)2段以上		後期後葉(古)	松山市	松山市報告174集　2014
	28	—	44頁188	釜ノ口遺跡9次	SD3(2層)	D1/D2	○	1	31.2	—	—	—	沈線文2条	—		後期後葉(古)	松山市	松山市報告174集　2014
	29	—	44頁190	釜ノ口遺跡9次	SD3(2層)	D2	○	1	—	—	16.8	—	—	鋸歯文(三角綾杉文)、円形透(径1.6cm)1段以上		後期後葉(古)	松山市	松山市報告174集　2014
	30	—	44頁191	釜ノ口遺跡9次	SD3(2層)	D2	○	1	—	—	—	28.4	—	円形透1段以上		後期後葉(古)	松山市	松山市報告174集　2014
	31	6	104頁368	福音小学校構内遺跡	土器溜り	A3			30.3	24.8		25.3	なし	円形透3段		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集　1995
	32	7	104頁369	福音小学校構内遺跡	土器溜り	A3			32.4	24.3		26.4	斜格子文	沈線文1段(3)、円形透2段		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集　1995
	33	8	105頁374	福音小学校構内遺跡	土器溜り	A3			—	—		—	—	円形透2段		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集　1995
	34	9	102頁367	福音小学校構内遺跡	土器溜り	A3			37.3	21.7		39.5	なし	円形透2段		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集　1995
	35	—	104頁370	福音小学校構内遺跡	土器溜り	A3？			(27.8)	—	—	—	2ケ一組の円形浮文	—		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集　1995
	36	—	104頁371	福音小学校構内遺跡	土器溜り	A3？			(28.6)	—	—	—	鋸歯文	—		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集　1995
	37	—	104頁373	福音小学校構内遺跡	土器溜り	A3？			(28.2)	—	—	—	横直線文3条、上面に三角文	—		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集　1995
	38	95	100頁355	福音小学校構内遺跡	土器溜り	D2	○	1	35	—	16.0	—	半截竹管文2段	半截竹管文2段・鋸歯文(三角綾杉文)、円形透8段		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集　1995
	39	96	102頁363	福音小学校構内遺跡	土器溜り	D2	○	1	—	—	14.4	—	—	沈線文3段(7･10･11)、円形透5段以上		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集　1995
	40	97	102頁366	福音小学校構内遺跡	土器溜り	D2	○	1	—	—	20.8	—	—	沈線文2段・横向綾杉文、円形透1段以上		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集　1995
	41	98	102頁365	福音小学校構内遺跡	土器溜り	D2	○	1	—	—	14.4	—	—	沈線文1段(3)以上・綾杉文		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集　1995
	42	100	101頁357	福音小学校構内遺跡	土器溜り	D1/D2	○	1	38	—	—	—	沈線文3条・棒状浮文	—		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集　1995

	43	99	102頁364	福音小学校構内遺跡	土器溜り	D2	○	1	—	—	18.0	—	—	沈線文2段(8・12)以上、円形透2段以上		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集 1995
	44	101	101頁356	福音小学校構内遺跡	土器溜り	D1/D2	○	1	37.2	—	—	—	沈線文3条	—		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集 1995
	45	102	101頁358	福音小学校構内遺跡	土器溜り	D1/D2	○	1	36	—	—	—	沈線文2条・半截竹管文	—		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集 1995
	46	103	101頁359	福音小学校構内遺跡	土器溜り	D1/D2	○	1	33.4	—	—	—	半截竹管文	—		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集 1995
	47	104	101頁360	福音小学校構内遺跡	土器溜り	D1/D2	○	1	50.2	—	—	—	三角充填鋸歯文・半截竹管文	—		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集 1995
	48	105	104頁372	福音小学校構内遺跡	土器溜り	D1/D2	○	1	36	—	—	—	三角充填鋸歯文・波状文	—		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集 1995
	49	106	102頁354	福音小学校構内遺跡	土器溜り	D2	○	1	—	—		39.4	—	円形透1段以上	報告では受部	後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集 1995
	50	—	101頁361	福音小学校構内遺跡	土器溜り	D1/D2	○	1	(37.0)	—	—	—	—	—		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集 1995
	51	—	101頁362	福音小学校構内遺跡	土器溜り	D1/D2	○	1	—	—	—	36.5	—	裾端面に横直線文2条+縦直線6条1組		後期後葉(古)	松山市	松山市報告50集 1995
	52	5	47頁276	乃万の裏遺跡2次	SX5	A3			—	—		28	—	裾部に沈線文5条		後期後葉(古)	松山市	松山市報告72集 1999
	53	10	47頁271	乃万の裏遺跡2次	SX5	A3			46.5	23.3		40	三角充填鋸歯文	円形透2段		後期後葉(古)	松山市	松山市報告72集 1999
	54	112	69頁395	乃万の裏遺跡2次	V下層	D2	○	1	—	—		—	—	沈線文2段(4・6)以上、円形透2段以上		後期後葉	松山市	松山市報告72集 1999
	55	—	53頁294	乃万の裏遺跡2次	SR1	D1/D2?	○	1	(37.0)	—	—	—	横直線文3条、上に円形浮文	—		後期後葉	松山市	松山市報告72集 1999
	56	75	127頁204	筋違F遺跡	SB5	D1	○	1	—	—		—	—	沈線文1段(4)、円形透2段以上		後期後葉	松山市	松山市報告52集 1996
	57	107	127頁207	筋違F遺跡	SB5	D2	○	1	—	—		35.1	—	円形透1段以上		後期後葉	松山市	松山市報告52集 1996
	58	108	未掲載	筋違F遺跡	SB5	D2	○	1	—	—		—	—	円形透3段以上		後期後葉	松山市	松山市報告52集 1996
	59	124	127頁202	筋違F遺跡	SB5	E	○	1	38.8	—		—	櫛描波状文･S字状浮文	円形透6段以上		後期後葉	松山市	松山市報告52集 1996
	60	125	127頁203	筋違F遺跡	SB5	E	○	1	—	—		—	—	円形透5段以上		後期後葉	松山市	松山市報告52集 1996
	61	—	151頁333	筋違F遺跡	SK12	D?	○	1	—	—	—	(42.0)	櫛描波状文･S字状浮文	沈線文3条・5条		後期後葉	松山市	松山市報告52集 1996
	62	109		釜ノ口遺跡4次		D2	○	1	51.2	64.5		41.4	沈線文4条・円形浮文	沈線文5(9･8･8･8･9)、円形透5段		後期後半(後葉)	松山市	『松山市史』
	63	110		釜ノ口遺跡4次		D2	○	1	—	—		—	—	沈線文2段(8・6)以上、円形透2段以上		後期後葉	松山市	未報告
	64	111		釜ノ口遺跡4次		D2	○	1	—	—		30.6	—	沈線文1段(7)以上、円形透1段以上		後期後葉	松山市	未報告
	65	—	56頁302	東本遺跡9次調査	SB101	D2 (E)?	○	1	(60.0)	—	—	—	半截竹管文・円形浮文・U字形浮文	—		後期後葉	松山市	松山市報告153集 2011
	66	—	56頁303	東本遺跡9次調査	SB101	D2 (E)?	○	1	(44.8)	—	—	—	櫛描波状文	—		後期後葉	松山市	松山市報告153集 2011
	67	—	56頁304	東本遺跡9次調査	SB101	D(E)?	○	1	(31.6)	—	—	—	櫛描波状文・円形浮文	—		後期後葉	松山市	松山市報告153集 2011
	68	—	56頁305	東本遺跡9次調査	SB101	D(E)?	○	1	—	—	—	—	沈線文	—		後期後葉	松山市	松山市報告153集 2011
	69	—	56頁306	東本遺跡9次調査	SB101	D2	○	1	—	—	13.2	—	—	円形透3段以上、8方向		後期後葉	松山市	松山市報告153集 2011
	70	—	56頁307	東本遺跡9次調査	SB101	D2	○	1	34.5	40.2+	13.6	—	沈線文・櫛描波状文・半截竹管文・浮文跡4箇所以上	円形透9段以上		後期後葉	松山市	松山市報告153集 2011
	71	—	56頁308	東本遺跡9次調査	SB101	D2	○	1	—	—	14.8	—	—	円形透5段以上		後期後葉	松山市	松山市報告153集 2011
	72	—	56頁309	東本遺跡9次調査	SB101	D2	○	1	—	—	14.0	30.8	—	円形透5段以上		後期後葉	松山市	松山市報告153集 2011
	73	—	56頁310	東本遺跡9次調査	SB101	D2	○	1	—	—	14.0	—	—	円形透4段以上		後期後葉	松山市	松山市報告153集 2011
	74	—	57頁311	東本遺跡9次調査	SB101	D2	○	1	31.2	33.0+	11.2	—	半截竹管文・円形浮文	円形透8段以上	口縁上面に半截竹管文	後期後葉	松山市	松山市報告153集 2011
	75	—	18頁34	東本遺跡11次調査	SB1	D(E)?	○	1	(37.0)	—	—	—	ヘラ描き沈線文・円形浮文	—		後期後葉	松山市	松山市報告143集 2010
	76	77	21頁128	中村松田遺跡	SB4	D1	○	1	—	—		24.4	—	円形透3段以上		後期後葉	松山市	松山市報告59集 1997
	77	78	21頁127	中村松田遺跡	SB4	D1	○	1	—	—		—	—	円形透4段以上		後期後葉	松山市	松山市報告59集 1997
	78	—	45頁268	中村松田遺跡	SK5	D2	○	1	—	—	(15)	—		直線文2段(4)以上、円形透3段以上		後期後葉	松山市	松山市報告59集 1997
	79	—	21頁63	中村松田遺跡4次調査	SE1	D	○	1	(31.0)	—	—	—	沈線文3条	—		後期後葉	松山市	松山市報告170集 2014
	80	—	31頁137	中村松田遺跡4次調査	SE2	D	○	1	—	—	12.4	—	—	沈線文2段(7・2)以上、円形透2段以上		後期後葉	松山市	松山市報告170集 2014
	81	—	31頁139	中村松田遺跡4次調査	SE2	D	○	1	—	—	—	(38.4)	—	円形透2段(径2.0cm)以上		後期後葉	松山市	松山市報告170集 2014
	82	113	66頁213	東野森ノ木遺跡2次	SB502	D2	○	1	—	—		—	—	沈線文2段(6・7)以上、円形透2段以上		後期後葉	松山市	松山市報告117集 2007
	83	—	127頁534	中村長正寺遺跡	SD1	D(E)?	○	1	(28.0+)	—	—	—	—	—	端部欠く	後期後半(後葉)	松山市	松山市報告134集 2009
	84	127	95頁394	拓南中学校構内遺跡	SK3	E	○	1	43	—		—	棒状浮文	円形透4段以上		後期後半(後葉)	松山市	松山市報告134集 2009
	85	—	95頁395	拓南中学校構内遺跡	SK3	D(E)?	○	1	—	—	—	(30.0)	—	—	裾端部に凹線文3条	後期後半(後葉)	松山市	松山市報告134集 2009
	86	—	100頁418	拓南中学校構内遺跡	包含層	D?	○	1	(41.4)	—	—	—	沈線文2条	—		後期後半(後葉)	松山市	松山市報告134集 2009
	87	117	154頁676	樽味立添遺跡3次	SB301	D2	○	1	—	—		—	—	沈線文1段(4)以上、三角文		後期後半(後葉)	松山市	松山市報告117集 2007

	88	—	5頁4	桑原遺跡8次	SB2	D2	○	1	—	—	15～18.4	—	—	円形透2段以上		後期後半	松山市	松山市年報35 2023
	89	—	5頁5	桑原遺跡8次	SB2	D2	○	1	—	—	16.8	—	—	円形透1段以上		後期後半	松山市	松山市年報35 2023
	90	80	66頁192	東本遺跡4次2区	SD203	D1	○	1	—	—		—	—	円形透4段以上		後期末葉(終末期古相)～古墳初頭	松山市	松山市報告54集 1996
	91	118	372頁107	桑原高井遺跡1次	SB01	D2	○	1	42.2	—		—	半截竹管文2段・円形浮文	—		後期末葉(終末期古相)	松山市	松山市報告54集 1996
	92	—	98頁135	樽味四反地遺跡20次	SB2上層	D？	○	1		—	—	—	櫛描波状文	—		後期末葉(終末期古相)～古墳初頭	松山市	松山市報告151集 2011
	93	—	98頁136	樽味四反地遺跡20次	SB2上層	D？	○	1	—	—	—	—	山形文(鋸歯文か？)	—		後期末葉(終末期古相)～古墳初頭	松山市	松山市報告151集 2011
	94	123	423頁1944	樽味四反地遺跡8次	大型建物跡柱穴	D1/D2	○	1	35	—		—	櫛描波状文･円形浮文・内面に半截竹管文	—		後期終末期(新相)～古墳初頭	松山市	松山市報告117集 2007
	95	—	52頁133	樽味四反地遺跡19次	第Ⅳ層	D	○	1	—	—	14.8	—	—	円形透(径1.6cm)2段以上		—	松山市	松山市報告151集 2011
	96	—	38頁149	樽味立添遺跡4次	包含層	A			—	—	9.6	—	—	円形透(径0.8cm)2段以上		—	松山市	松山市報告152集 2011
	97	—	66頁53	樽味高木遺跡15次	包含層	A？			—	—	9.6	—	—	沈線文2段(5・2)以上、櫛描波状文		—	松山市	松山市報告152集 2011
	98	—	296頁41	中村松田遺跡6次調査	SD1トレンチ	D?	○	1	—	—	9.0	—	—	円形透(径1.5cm)1段以上		後期後葉～古墳前期	松山市	松山市報告153集 2011
	99	—	5頁3	桑原遺跡8次	SB2	妙見山類似			—	—	12.8	26.4	—	裾部に三角形突帯		古墳初頭か	松山市	松山市年報35 2023
	100	—	211頁110	小坂遺跡6次調査	出土地点不明	D(E)？	○	1	(38.0)	—	—	—	ヘラ描き沈線文・棒状浮文	—		—	松山市	松山市報告153集 2011
久米遺跡群(来住遺跡群)	101	79	57頁43	来住廃寺2次	SB09	D1	○	1	31.2	—		—	櫛描波状文	円形透7段		後期後半(後葉)	松山市	松山市報告12集 1979
石井・浮穴遺跡群	102	—	417頁1459	北井門遺跡2次調査	5区SR-1上層	E	○	1	(44.4)	71.4	11.2～11.6	43.2	櫛描波状文	円形透(径2.6cm)14段8方向、最上段に未貫通円形スタンプ	裾部に櫛描波状文・半截竹管文	後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告174集 2012
	103	—	418頁1460	北井門遺跡2次調査	5区SR-1上層	E	○	1	(41.4)	71.7	12.4	(41.8)	櫛描波状文・S字状浮文・半截竹管文	円形透(径2.3cm)14段、最上段に未貫通円形スタンプ	裾部に櫛描波状文・半截竹管文	後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告174集 2013
	104	—	419頁1461	北井門遺跡2次調査	5区SR-1上層	E？	○	1	(50.4)	—	—	—	櫛描波状文・S字状浮文	—		後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告174集 2013
	105	—	419頁1462	北井門遺跡2次調査	5区SR-1上層	E？	○	1	(46.4)	—	—	—	櫛描波状文・S字状浮文・円形浮文・半截竹管文	—		後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告174集 2013
	106	—	419頁1463	北井門遺跡2次調査	5区SR-1上層	E？	○	1	(50.4)	—	—	—	櫛描波状文・斜格子文・半截竹管文	—		後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告174集 2013
	107	—	419頁1464	北井門遺跡2次調査	5区SR-1上層	E？	○	1	(39.0)	—	—	—	櫛描波状文・半截竹管文	—		後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告174集 2013
	108	—	419頁1465	北井門遺跡2次調査	5区SR-1上層	E？	○	1	(48.4)	—	—	—	櫛描波状文	—		後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告174集 2013
	109	—	420頁1466	北井門遺跡2次調査	5区SR-1上層	E	○	1	—	52.4+	12.8	—	—	円形透13段(径2.5cm)以上、最上段に未貫通円形スタンプ		後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告174集 2013
	110	—	420頁1467	北井門遺跡2次調査	5区SR-1上層	E	○	1	—	—	12.0	—	—	円形透7段(径2.6cm)以上		後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告174集 2013
	111	—	420頁1468	北井門遺跡2次調査	5区SR-1上層	E	○	1	(48.4)	50.7+	11.6	(37.7)	—	円形透12段(径2.5cm)以上		後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告174集 2013
	112	—	421頁1469	北井門遺跡2次調査	5区SR-1上層	E	○	1	—	—	—	(38.2)	—	円形透1段以上	裾部に櫛描波状文・半截竹管文	後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告174集 2013
	113	—	421頁1470	北井門遺跡2次調査	5区SR-1上層	E	○	1	—	—	—	(38.7)	—	円形透1段以上	裾部に櫛描波状文	後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告174集 2013
	114	—	421頁1471	北井門遺跡2次調査	5区SR-1上層	E	○	1	—	—	—	(37.6)	—	—	裾部に櫛描波状文	後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告174集 2013
	115	—	421頁1472	北井門遺跡2次調査	5区SR-1上層	E？	○	1	—	—	—	(36.0)	—	円形透12段(径2.5cm)以上	裾部に櫛描波状文・半截竹管文	後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告174集 2013
	116	—	421頁1473	北井門遺跡2次調査	5区SR-1上層	E？	○	1	—	—	—	—	櫛描波状文・半截竹管文	—		後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告174集 2013
	117	—	296頁1022	北井門遺跡2次調査	5区SI-1	E？	○	1	(46.0)	—	—	—	櫛描波状文	—		後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告174集 2013
	118	—	128頁384	北井門遺跡3次調査	SI5	E？	○	1	(38.0)	—	—	—	三角充填鋸歯文・刺突列点文	—		後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告177集 2013
	119	—	129頁393	北井門遺跡3次調査	SI5	E？	○	1	(34.0)	—	—	—	櫛描波状文	—		後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告177集 2013
	120	—	129頁394	北井門遺跡3次調査	SI5	E？	○	1	—	—	—	(38.4)	—	円形透1段以上	裾端面に櫛描波状文、裾部に竹管文	後期後半(後葉)	愛媛県	愛媛県報告177集 2013
	121	—	198頁639	北井門遺跡3次調査	SD6(A地点)	E	○	1	32.4	—	—	—	櫛描波状文・半截竹管文	円形透1段以上、最上段に未貫通円形スタンプ		後期後半(後葉～終末期古相)	愛媛県	愛媛県報告177集 2013
	122	—	208頁745	北井門遺跡3次調査	ＳＤ６(地点不明)	E？	○	1	—	—	—	(27.8)	—	—	裾端面に櫛描波状文、裾部に半截竹管文	後期後半(後葉～終末期古相)	愛媛県	愛媛県報告177集 2013
	123	116	424頁347	西石井遺跡3次	SE104	D2	○	1	—	—		—	—	沈線文3段(7・7・6)以上、円形透2段以上		後期後半(後葉)	松山市	松山市報告112集 2005
	124	—	385頁43	西石井遺跡3次	SB201	D2	○	1	—	—	—	—	—	円形透2段以上		後期後半(後葉～終末期古相)	松山市	松山市報告112集 2005
	125	—	448頁439	西石井遺跡3次	SP239	D	○	1	—	—	—	—	—	裾部に有軸羽状文		後期後半(後葉～終末期古相)	松山市	松山市報告112集 2005
	126	93	155頁851	西石井遺跡1次	SK201	D1	○	1	32.6	—		—	三角充填鋸歯文・竹管文	—		後期末葉(終末期古相)	松山市	松山市報告112集 2005
	127	115	164頁972	西石井遺跡1次	SK403	D2	○	1	—	—		—	—	円形透2段以上		後期後半(後葉～終末期古相)	松山市	松山市報告112集 2005

	128	120	164頁 971	西石井遺跡1次	SK403	D2	○	1	—	—		42	—	—	裾端部に斜格子文、上面に半截竹管文	後期後半(後葉～終末期古相)	松山市	松山市報告 112集　2005
	129	—	252頁 2081	西石井遺跡1次	SP425	D	○	1	—	—	16.8	—	—	円形透2段以上		後期後半(後葉～終末期古相)	松山市	松山市報告 112集　2005
	130	—	252頁 2088	西石井遺跡1次	SP459	D	○	1	—	—	14.0	—	—	円形透1段以上		後期後半(後葉～終末期古相)	松山市	松山市報告 112集　2005
	131	—	258頁 2199	西石井遺跡1次	包含層	D	○	1	—	—	15.6	—	—	円形透1段以上		後期後半(後葉～終末期古相)	松山市	松山市報告 112集　2005
	132	—	163頁 963	西石井遺跡1次	SK401	D？	○	1	(27.0)	—	—	—	櫛描波状文、上面に半截竹管文	—		後期末葉(終末期古相)	松山市	松山市報告 112集　2005
	133	—	163頁 964	西石井遺跡1次	SK401	D？	○	1	(30.2)	—	—	—	ヘラ描き沈線文、上面に半截竹管文	—		後期末葉(終末期古相)	松山市	松山市報告 112集　2005
	134	—	163頁 965	西石井遺跡1次	SK401	D	○	1	—	—	10.5	—	—	円形透4段以上		後期末葉(終末期古相)	松山市	松山市報告 112集　2005
	135	86	170頁 127, 133	西石井荒神堂遺跡	DK1	D1	○	1	34.3	—		—	S字状浮文・棒状浮文	円形透1段以上		後期末葉(終末期古相)	松山市	松山市報告65 集　1998
	136	87	170頁 134	西石井荒神堂遺跡	DK1	D1	○	1	—	—		—	—	円形透4段以上		後期末葉(終末期古相)	松山市	松山市報告65 集　1998
	137	88		西石井荒神堂遺跡	DK1	D1	○	1	—	—		—	—	円形透1段以上		後期末葉(終末期古相)	松山市	未報告
	138	85	63頁316	石井東小学校構内遺跡	SD1	D1	○	1	—	—		—	—	円形透2段以上		後期末葉(終末期古相)	松山市	松山市報告65 集　1998
	139	90	54頁230	石井東小学校構内遺跡	SK5	D1	○	1	—	—		31.2	—	円形透1段以上		後期末葉(終末期古相)	松山市	松山市報告65 集　1998
	140	83	139頁 643	西石井遺跡1次	SD503	D1	○	1	—	—		—	—	円形透1段以上		後期末葉(終末期新相)	松山市	松山市報告 112集　2005
	141	84	139頁 644	西石井遺跡1次	SD503	D1	○	1	—	—		—	—	円形透2段以上		後期末葉(終末期新相)	松山市	松山市報告 112集　2005
	142	89	139頁 642	西石井遺跡1次	SD503	D1	○	1	—	—		26.2	—	—		後期末葉(終末期新相)	松山市	松山市報告 112集　2005
	143	92	139頁 641	西石井遺跡1次	SD503	D1	○	1	25	—		—	櫛描波状文	—		後期末葉(終末期新相)	松山市	松山市報告 112集　2005
	144	81-1		北井門遺跡		D1	○	1	—	—		—	—	円形透2段以上		後期末葉(終末期新相)	愛媛県	未報告
	145	81-2	4分冊 865頁 8908	北井門遺跡	NSK7 SD09	D1			—	—	12.9	—	—	円形透2段以上		後期末葉(終末期新相)	愛媛県	愛媛県報告 159集　2010
	146	91-1		北井門遺跡		D1	○	1	28.2	—		—	半截竹管文4段・棒状浮文	—		後期末葉(終末期新相)	愛媛県	未報告
	147	91-2	4分冊 862頁 8878	北井門遺跡	MSK7 SD09	D1			(24.2)	—	—	—	半截竹管文・棒状浮文	—		後期末葉(終末期新相)	愛媛県	愛媛県報告 159集　2010
	148	—	3分冊 660頁 6905	北井門遺跡	MSK6 SI17	D？	○	1	(29.2)	—	—	—	沈線文3条・円形浮文	—		後期末葉(終末期新相)	愛媛県	愛媛県報告 159集　2010
	149	—	3分冊 660頁 6906	北井門遺跡	MSK6 SI17	D1	○	1	—	—	9.0	(29.2)	—	円形透3段以上		後期末葉(終末期新相)	愛媛県	愛媛県報告 159集　2010
	150	—	3分冊 798頁 8082	北井門遺跡	MSK6 SX03	D1	○	1	—	—	11.4	—	—	円形透3段以上、8方向		終末期～古墳初頭	愛媛県	愛媛県報告 159集　2010
	151	—	80頁11	古川遺跡5次調査	SD2	D(E)？	○	1	(34.0)	—	—	—	櫛描波状文	—		終末期～古墳初頭	松山市	松山市報告 167集　2013
	151	128		椿神社表採		A			—	—		—	—	沈線文1段(10～11)、円形透2段		—	個人蔵	未報告
砥部・御坂川遺跡群	151	76	5頁4	土壇原北遺跡	土坑状遺構	D1？	○	1	—	—		25	—	沈線文4段(4・7・6・5)、円形透2段		後期後半(後葉)	愛媛県	『ふたな』 1977・『愛媛県史』1982
	151	126	3頁1	土壇原北遺跡	土坑状遺構	E	○	1	48.4	74.5	22.4	43.8	半截竹管文3段・棒状浮文	沈線文7段(すべて12)、円形透7段		後期後半(後葉)	愛媛県	『ふたな』 1977・『愛媛県史』1982
	151	—		土壇原VI遺跡	第1号遺構	D2	○	1	(39.4)	—	16.4	(37)	沈線文・大型竹管文	沈線文(11)3段以上・円形透3段以上	裾端面に沈線文	後期後半(後葉)	愛媛県	紀要愛媛第18 号 2022
	151	—		土壇原VI遺跡	第3号遺構	D2	○	1	43.1	60.7	16.5～18.6	38	櫛描波状文・棒状浮文	櫛描波状文/沈線文(5)1段・円形透8段	裾端面に沈線文	後期後半(後葉)	愛媛県	紀要愛媛第18 号 2022
	151	—		土壇原VI遺跡	第9号遺構	D(E)？	○	1	32.6	—	—	—	櫛描波状文・円形浮文(上に竹管文)	—	口縁上面に櫛描波状文	後期後半(後葉)	愛媛県	紀要愛媛第18 号 2022
	151	—		土壇原VI遺跡	第9号遺構	D(E)？	○	1	38.7	—	—	—	沈線文	—	口縁胴部境に三角形突帯	後期後半(後葉)	愛媛県	紀要愛媛第18 号 2022
伊予遺跡群	151	133	86頁87- 1,87-2	上三谷原古墳	封土内	D2	○	1	39.6	—		38	櫛描波状文・S字状浮文・竹管文	円形透4段以上		—	愛媛県	愛媛県報告68 集　1998
	151	—	194頁95	小泉遺跡	採集	D(E)？	○	1	(27.8)	—	—	—	半截竹管文3段・上面に半截竹管文2列	—		末葉～終末期	松山市	松山市報告65 集　1998
大型器台計								138										